

梅の園

鎮西祐美

## 登場人物

泰造 …二十代後半。市民劇団コハピタスの副代表

明美 …二十代後半。市民劇団コハピタスの役者・会計

琴子 …三十代。シニア劇団「梅の園」の代表・留五郎の孫の妻（孫嫁）

※初演時、後半の老人に扮する劇中劇はこの三名が演じた。

泰造↓孫嫁、明美↓留五郎、琴子↓キミエ

演出によつては全くちがう役者が演じても構わない。

## 背景

この戯曲は、二〇二二年九月に閉館した秋田市文化会館小ホールでの上演を想定し、まさにその舞台上で起こる物語として執筆された。翌年には、秋田市千秋公園（久保田城跡）に、新たに芸術劇場の開館が予定されていたが、長年親しんだ施設は失われる。それらの事情が広く共有された地域の、あきらめと新しい場所への期待がせめぎあう空気の中で、二〇二二年七月に上演されたものである。

これらの事情を解されるなら、上演される地域によって、単語や方言の改変を制限しない。

開演 第一幕

雪国の老朽化した市立文化会館ホールの舞台上。  
年明けの秋には、取り壊しが内定している。

舞台上は明らかに「練習中」の様子で、空間が開いている。

高足（開き足）や箱馬（箱足）、平台が転がっているなど。

しかし、ホリゾント幕ないしは大黒幕が下りているため、舞台裏  
や出ハケ口は見えない。

季節は一月。外は降雪している。

暗転中。

前面にぼつんと明かりが灯る。

明かりの下に立つ琴子。モノローグ。

琴子 人前に立つのが苦手。苦手っていうか無理！ そんな私が、まさか舞台に……  
エンゲキに関わる羽目になるなんて……一月の土曜日のこと。私がパートから帰っ  
たら、うちのじいさんばあさんが突然言い出しました。「あ今日なあ文化ホールで  
な、文化ホールってのはー、なんだっけばあさん、そう文化ホールでなあ、なんだ  
っけばあさん」ああもう！ ……回りくどい話をはしよってはしよって聞き取った

ところ、どうやらじいさんばあさんのエンゲキサークルと、若い人たちの団体で相談ごとがあつたんだと。じいさんばあさんは具合が悪いから、あたしに行けつて言うんです。は？　これから昼飯作つて保育園のお迎えですけど。ていうか、ばあさん！　具合悪いのになんでコーラスの準備してるの？　そして、じいさん！　なんで今日もデイサービスに行つてないの？　しかも旦那！　コタツで寝てる場合じゃない、あんたのじいさんばあさんでしょ、あんたが行けよ！　……なーんて。言いたい、でも言えない！　ああハイハイ私が行くんでしょ。いつもこう。……道路は最悪。昨日降つた雨が雪を溶かしてぐずぐず……集合時間は？　ブンカホールのホールに、十一時！　……今、十一時十五分ですけど。相手の人、帰つたんじゃない……（雪を漕ぎながら）なんで駐車場がこんなに遠いの。なんであの車の人、向かいの運動場に入つていくの。あー腹立つ！　言いたい！　言えないけど……ぜえぜえ（受付に）すいません。あの。ホールの入り口つてどつちですか？　は？　……大ホールか、小ホールか？　知らねー……

琴子は、ぐるぐる回りながら下手にはける。

いつの間にか舞台上に座つていた、明美と泰造の会話が始まる。

椅子は三つ。一つは空席。

かなり待ちくたびれている、明美と泰造。

明美 「ゴドーを待ちながら」つてあんじゃん。

泰造 あんじゃん、と振られても俺そんなに、

明美 あの話さ。

泰造 (諦めて) はいはい。

明美 ゴドー……来ないんだよ。

泰造 え、ゴドー来なくて誰が来るんですか。

明美 知らん。噂しか知らん。

泰造 明美さんも見たこと無いじゃないですか。

明美 だってさあ……

二人、「来ない」空席の一つを見る。

明美 よっ。

立ち上がり、発声練習を始める明美。

泰造は合間を縫って話しかける。

明美 あー、あー、あ、え、い、う、

泰造 本当にやるんですか。

明美 (聞いて) え、お、あ、お……知らん！ か、か、け、き、く、

泰造 よりにもよって、なんで。

明美 か、ね、が、な、い、の、だ。

泰造 しかしですね……

明美 (休止して) そんなにイヤ?

泰造 イヤというより、時代が違いすぎると思いませんか。

明美 (再開) さ、せ、し、す、

泰造 年寄りばかりなんて。

明美 せ、そ、さ、そ。

泰造 そもそも「梅の園」って名前が滅びそうなんですよ。

明美 (止める) ……なんで? あ、チエーホフか。

泰造 俺だって、「桜の園」ぐらいは読んでます。

明美 それ違うって。梅霊園の近くで練習してるからだって。

泰造 心霊スポットでもうすぐ心霊になる人たちが練習か。

明美 泰造君。そんなに言うならさ、ちよつと去年のことを思い出して?

泰造 えーと……?

明美 若手の団体と合同公演したらどうなった?

泰造 甚兵衛さんが張り切って、三時間超えの巨大な装置がある超大作を書きま

した。

明美 実質2ヶ月しか無かったのに。

泰造 毎日毎日、仕事終わりに練習練習。

明美 装置を塗って、

泰造 練習練習。

明美 衣装は縫って、

泰造 れんしゅ……つらすぎて本番前の記憶が無い。

明美 迫りくる本番。日に日に険悪になる稽古場の空気。

泰造 壊れる役者たち。

明美 壊れるうちの代表。

泰造 甚兵衛さん……本番前に風邪ひいてガナリのマイクでむせてましたね。

明美 (実演) みなぎあああん声でてませんよ～お客様に届きませんよ～げふっげふ  
げふ (咳)

泰造 あの風邪、今なら中止です。

明美 だからさ、せめて相手がじいさんばあさんならあの人も無茶できないでしょ。

泰造 でも、あときは楽しかったです。死ぬ思いしたけど。

明美 死ぬ思いしたじゃん！

泰造 でも次は？ 楽しそうですか？

明美 次だって、ここが使えるなら楽しいよ。

慣れ親しんだホールを見回す二人。

もうすぐ消えてしまう場所に、郷愁が漂う。

明美 ……ヤダね。

泰造 ……ヤですな。

座り直す、二人。

泰造 (携帯電話を出して) 本当に来ないですね。

明美 (携帯電話を出して) あれ土曜の十一時だよな？

泰造 あ、俺見ますよ。

明美 いやいや、あたし送ったから。

泰造 いやいや、副代表ですから。

明美 いやいや、あたし制作だから。

なんだかんだ、二人でやり取りをチェック。

明美 うん。……(確認) 合ってるね。

泰造 よく空いてましたね、ここ。

明美 たまたまね。(立つ) ……た…た…た、て、ち、つ、

さらに発声練習しようとする明美の横で、急に大きな声を出す泰造。

泰造 「(宝くじ)ジャンボ当たれー!」

明美 (大声) 「甚兵衛さんの金食い虫ー!」

泰造 「ボーナス上がれー!」

明美 「五十万円で宇宙船、作るんじゃねー!」

泰造 「しかも最後にちよつとしか使わねー!」

明美 「金庫持たせるんじゃなかったー!」

泰造 (止めて) でも、ナイナイって言いますけど、少しは貯金も残ってるんですよ。

明美 予算の半分くらい。

泰造 やっぱり、じいさんばあさんの世話じゃなくて、俺たちだけで……。

明美 仕方ないよ。甚兵衛さんが声かけたんだから。

泰造 まったくあの人は。

明美 ……本気でヤバそうなら副代表が断ってくれるんでしょ?

泰造 いや俺なんて、あれ……なんか腹の具合が……ちよつとトイレ……あつ……  
(人影が見えたので戻る)

(声) 琴子 へーこんなところから入れるんですね。知らなかつ……きやつ、すみません! わざとじゃないんです!

明美 引き綱、引っ張ったね。

泰造 シロートじゃあるまいし。

琴子が幕の裾から顔を覗かせる。客席を見て、

琴子 こんにちは……うっ（照明を浴びて固まる）

明美 初めまして！

泰造 初めまして！ 劇団コハピタスです！

琴子、無言でそでに引つ込む。

明美 って、逃げた！

泰造 ちよっと待ってください。

泰造が琴子を引つ張り出そうと、そでで奮闘する。明美は観察している。

泰造 怖く無いですよ！大丈夫ですよ！

琴子 いやいや、無理無理無理！

泰造 取って食いやしませんから。

琴子 きゃあああ食うとか言われた、すげこまし！

泰造 人聞きの悪い！ あっ……！

琴子が走り出てくる。照明と客席に驚いてパニックになる。  
舞台上を駆け回る。

明美 ちよつとちよつと！（追いかける）

琴子 無理無理無理！（走る）

泰造 だめですよ！

琴子 無理！（走る）

舞台のツラから落ちそうになる琴子を、明美と泰造が抱きかかえて止める。

泰造 危なかった。

明美 どうどう……

琴子 すみません……すみません！

琴子、てきとうな平台の後ろなどに隠れてしまう。  
泰造、のぞきこむ。

泰造 出て来てください。いじめたりしませんよ。

明美 なんだっていうの？

琴子 (頭を出して) こっち明るいのに、そっち(客席)真っ暗だから。

明美 せっかくなら本番の舞台のほうがイメージしやすいと思っただけです。

泰造 誰もいませんよ。大丈夫、大丈夫。

琴子 幕閉じないんですか？ 上から、がーって。

泰造 緞帳？

明美 すみません。今日は動かさせません。

琴子 無理、緊張する。

明美 じゃあ、そっち見ないようにすればいいでしょ？

泰造が椅子を並べ始める。  
琴子、物陰から出てくる。

明美 どうぞ。

琴子 ううう…… (イスの角度を調整して座るが、隠れる)

明美 もそつと前に。

琴子 …… (椅子ごと前へ)

明美 もう一声。

琴子 ……うっ！ (座ろうとして隠れた)

明美 だめかあ。  
泰造 じゃあ俺は失礼して……（トイレに抜けようとする）  
明美 早く、副代表。ふざけてないで。  
泰造 ふざつ……

泰造、しぶしぶ座る。

泰造 初めまして、劇団コハピタスの鈴木です。  
琴子 げ、劇だ……えーと梅の園の、鈴木です。  
泰造 心霊スポットですよねイテッ（明美にこづかれた）  
琴子 はは……（半笑い）  
明美 でもおちよつと意外でした。  
泰造 （腹を押さえてうなづく）  
明美 梅の園さんって、ね、平均年齢が、ね？  
琴子 ああ、はい。八十歳です。  
泰造 生きてる人もいるんですねイテッ。（明美にこづかれた）  
琴子 じいさんばあさんが忙しいらしくて。代わりに……（隠れた）  
明美 いなくならないで……泰造君！（動作で促す）  
泰造 ……副代表の鈴木泰造です。（名刺を出して渡す）  
明美 同じく、会計・制作の鈴木明美です。（名刺を渡す）

琴子 あ、どうも。どうも（片手ずつ受け取る）……へえ。みんな鈴木ですね（隠れる）

明美 はは……

泰造 はは……

琴子、カバンを引き寄せ、名刺を仕舞い込む。

名刺をもらう準備をしていたコハビタスの二人は手を引つ込める。

琴子 えーと、ご夫婦？

泰造 芝居仲間です！

明美 赤の他人ですよ。

泰造 （明美を見る。シヨック）

明美 うち鈴木率が高いんです。鈴木、鈴木、佐々木、甚兵衛。

琴子 ジンベエ？

明美 代表です。名字が甚兵衛。えっと鈴木さんは……（言いくそうにする）

琴子 琴子でいいです。梅の園の、鈴木留五郎とキミエの孫の、嫁です。

明美 そういえば、梅の園さんの代表はご夫婦でしたっけ？

泰造 所詮、身内の集まりか。はっ！（脇腹をつつかれるのを防御する）

明美 ちっ。……琴子さん、今日お時間は？

琴子 あ。子ども迎えに行くんで（カバンを引き寄せる）……十二時くらいで失礼し

ていいですか？

泰造 逃げ回ってる間に十一時半ですけど……

明美 お忙しいんですね。

泰造、明美の不機嫌を感じ取り、

泰造 あゝ。ま、隠れたままでもいいでしょう。それでは……劇団コハピタスと梅の

園さんの、合同公演の計画についてですが……

明美 いくら出せますか。

琴子 えっ。

泰造 明美さん、早いですよ。

明美 十二時まででなんでしょ？サクサクやりましょ。梅の園さん、もしウチと舞台作  
るとしたら、いくら出せますか。

琴子 ああ、えっと……留五郎に預かってきたんだ……（鞆から封筒を出し、さらに

渡す前に封筒の中を確認）……うえっ！

泰造 どうしました。

琴子、明らかに渋い顔になる。

携帯電話を取り出し、物凄い勢いで文章を打ち込む。

琴子 旦那も知らないって。あのクソじじばば。

泰造 あの……

琴子 ……どーすんのよー！

泰造 何か問題が？

琴子 留五郎とキミエが、みんなの年金かき集めて、十五万も出すって言うてるんです。

泰造 はあ。

琴子 ありえないです。家のお金だし。じいさんばあさんの道楽に使われるとか。

明美 高いと思っちゃうか。

琴子 ケタ一個違うでしょ。ごめんなさいね……（打っている）あの人たち、な、

に、考え……

明美 妥当じゃない。

琴子 え？

泰造 うちの貯金の残りもそれくらいですよね。

明美 こら。

琴子 いやいや冗談？ 十五万円ですよ？ 千円札が百五十枚ですよ！

泰造 千円札で表す人、初めてです。

明美 ここで二日間も公演やったら、出費三十万円で赤字です。

琴子 えっ。たっか！

泰造 あっ念のため。会場費はずっと安いですよ。でも設備費とか、装置のトラック

レンタルして運んだり……つと……（話しても良いか明美の顔を見る）

明美（うなづく）

琴子 またまた！ やめてください！

明美 ……

泰造 ……

琴子 これでも梅の園の金の管理してるんで。そんなかからないですよね。

明美 明細……どうぞ。

明美、荷物から明細のファイルを出し、琴子に見せる。

明美 前の公演のですけど。予算三十万で、一八〇〇円ずつお客様にいただいて……

赤字、

琴子 待ってください。一八〇〇円？ チケット代一八〇〇円？ 一人で、家族全員

じゃなく！

明美 はい。

琴子 子どものひと月の副食費や無いかい！

明美 給食、安いですね。

琴子 だめです。じいさんたち趣味なんで、こんなプロに巻き込まれても困ります。

琴子、明細を返す。

琴子 レッスン料とかあるんでしょう？

泰造 すみません、プロじゃ無いです。俺たちも趣味です。

琴子 待って……テレビに出たり、いつかデビューするんですよね？

明美 あたし普通にアルバイト掛け持ちですね。

泰造 定年まで会社員の予定です。

明美 あと栄養士とか販売員とか……みんな仕事終わりに、根性で集まって、深夜まで練習して、次の日また普通に仕事に行く……

## 間

琴子 馬鹿なの？

泰造 馬鹿ですよいけませんか!!

明美 どうどう！ まあ、よく言っちゃえばお金の問題じゃ無い。大事なものはハート  
なんで。

琴子 なんだあ。プロじゃ無いんだあ。普通の人なのに十五万も使うんだあ。

泰造 ハイ。

琴子 あーあ。留五郎なんてプロとやれるって信じてたのに。(携帯電話に打つ)

シロート、ら、し、い、よ

泰造 なんですか。

琴子 (入力) シロート、な、の、に、チケツト代せんはっぴやく……

泰造 なんか文句あるんですか。

琴子 いえいえ。ヨーチューブなんてタダで楽しいのに、あ、いえいえ。旦那から

ね、じいさんばあさんに言ってもらわなきゃ……

泰造 芝居はヨーチューブより楽しいですよ。そのへんも、きっちり説明してください。

琴子

泰造 はは、そうですねー。

泰造 芝居はっ！ いてて……

腹の調子も、堪忍袋も限界な泰造。椅子の上で変な体勢になっていく。

泰造 ……明美さん、俺そろそろヤバいです。色々と限界がつ。

明美 はーい、喧嘩はやめましょ！

琴子 もう帰ってもいいですよ。ね？ (後ずさり)

泰造 そうですね。合同公演の話は無しってことで、みんな帰りましょう！ はい解

散です！ 帰れ帰れ！

琴子 (画面を見て) はあっ？

明美 どうかしました。

琴子 ちよつと電話してきます。あの、時間は？

明美 あたしたちは大丈夫ですよ。

泰造 (自分は大丈夫じゃない顔)

琴子 あっ。トイレどこですか？

明美 そこ降りて、上手の扉を開けて。

琴子 髪？(触る)

明美 あれ、開ける、目の前、トイレ。

琴子 ありがとうございます、ここトイレ少なくて！

泰造 ああ……(自分だって行きたいのに先を越された顔)

明美 泰造君、トイレくらいで睨まないの。

琴子、去る。腹痛がひどすぎて変な態勢の泰造。

泰造 なんですかあれ。

明美 前途多難だけども……

泰造 あの人が会計なら金も出し渋られますって。ああ時間の無駄だった……

明美 そ？ 無駄？

泰造 あ、いや。帰りに珈琲とかいかがですか……いや……その前に俺も(トイレに

行こうとする)

明美 逆にさ！

泰造 (行こうとして) はい？

明美 あの人を芝居に目覚めさせちゃえば、梅の園からいっばい引つ張れると思わない？

泰造 えー、そんなうまく行きますか。

明美 ちよつと甚兵衛さんに連絡して。

泰造 ええ……（渋りつつ携帯電話を出す）

明美 さつきからコンパスみたいに体折れてるよ？

（声） 琴子 はあ？ あんた毎回毎回そうやって！ 今度だけ今度だけって、先月も言ってた……ここ開かない、このっ（がちやがちや）……はあ、もういいよ。いいよいいよ。いいですよ。どうせやることになるんだからさ。（がちやがちや）

泰造 ガチャガチャしすぎ！ 壊れますから！

泰造が上手奥に助けに行き、琴子と戻ってくる。

琴子、さつきよりすんなり戻りかけて、舞台の眩しさに後退する。

意図せず、袖幕に触る。

泰造 幕を引つ張らないでください！

琴子 ぎゃっ！

琴子、立ちつくす。

明美 脅かさないの。

泰造 しかし初心者だからって。

明美 (首を振る) 琴子さん、お話終わりましたあ？

琴子 あ、はい……

立ちっぱなしの琴子。

明美 座らないんですか？

沈黙、静かに座るが、何も言い出さない琴子。

泰造 帰らないんですか？

琴子 あー、コハビタスさんは？

泰造 代表に報告を……うっ(腹痛)

琴子 そうですよね……。

泰造 すみません俺、失礼します、お二人は、帰っててもいいんで！

泰造、トイレに駆け去る。

沈黙。

うつむいている、琴子。

明美 ねえ。

琴子 はい……

明美 もしかして、絶対うちとコラボしてこいつって言われたりした？ 留五郎さんと

キミエさんの……孫、あなたの旦那さんあたり。

琴子 あのクソおばあちゃん子！ もうやだー！

明美 凶星かあ……

琴子 もうすぐ死ぬから冥土のみやげに……って何回キミエおばあちゃんにおんなじ  
手でほだされたら気が済むの……あの人たちがすぐ死ぬわけじゃないでしょ百まで生き  
るわ。

明美 おつかれさま。

琴子 十五万円……高すぎる……

沈黙。

戻ってくる泰造。スッキリした顔である。

泰造 ただいま戻りました！ あれ、まだ（居たんですな）

泰造が座つても、膠着した空気は変わらず。

泰造 (話題を探す) あっ梅の園さんも、普段は会費を集めるんですか。

琴子 (やる気なく) そうですね。鈴木夫婦が出してるのと、あと助成金…… (はつとする)

明美 助成金? もらってるの?

琴子 ……いえ……じよ……女子高生っていいですよ! じよせいによるじよせい

のための女子高生に戻りたいなーなんて。

泰造 助成金って聞こえましたよ。

琴子 かいひ……です……

明美 会費いくら?

琴子 月五〇〇円……

明美 うちは三〇〇〇円です。

琴子 はは……高い……

明美 でもね。ぶっちゃけ五〇〇円じゃね、足りませんよね。

琴子 いやあそれほどでも。

泰造 あ。どっかから金が出たんだな。

琴子 ……!!! (アクション)

明美 県のシニア文化活動の助成金。

琴子 ……!!! (アクション)

泰造 えっ、去年うちは応募できないって言われてた。  
明美 そもそも甚兵衛さんが申し込み忘れた奴よ……

明美、泰造が見つめる。

琴子、突如立ち上がり帰ろうとする。

明美と泰造、思わず捕まえに行き、ひっぱり戻す。

明美 なになににどうしたの？  
泰造 何か問題が。

琴子、振り払うが、数歩離れた場所で立ち止まる。頭を下げる。

琴子 ……ごめんなさい！

泰造 なんて謝るんですか。

琴子 去年、活動して無かったのに助成の書類が通ってしまって、そこからうちの留  
五郎たちが町内会のお金にげっへへへへへ（横流しの動き）

泰造 うわ。それやばいですよね？

明美 うちよりずっとバカね……

琴子 お金の問題じゃないんです！ 大事なのはじいさんたちのハートだから？  
明美 犯罪だから。ていうか、助成金の書類は誰が作ったの？

琴子 あたし……

明美 え？

琴子 領収書もばらばらだし。二度とやりたく無いのに！

泰造 そもそもあなた舞台を見たことありますか？

琴子 まさか。

泰造 そのまさかは梅の園さんのも？

琴子 じいさんたちの発表会は一回も間に合ったことないです。

明美 待つて。舞台見ないで書類を通したの。

琴子 ネットで調べれば、どうにか。

明美 (考えている)

泰造 あなたね、演劇、お芝居、好きなんですか？

何かのために立ち上がる。不自然な動きをする琴子。

琴子 ずきでずよっ！

泰造 すごい劇的な動き出ました。

琴子 ずきだあ。

泰造 ここまで気持ちと表情が合わないのって、なかなか。

明美 本音言えば？

琴子 いい歳して人前でロミオロミオ恥ずかしく無いのかなって。やたら金もかかる

みたいだし。くそだわ。

泰造 ちよつと！ロミオロミオは一部の人しかやりません。ラーメンズとか見ませんか？

琴子 あっ！ オリンピック出来なかった人！

泰造 不名誉な情報を言うなあ！

明美 どうどう。

琴子 この舞台も、やたら眩しいし。そっち側は暗いし。箱ばかりだし。触ると怒られるし。何をしていいか分かんないっていうか……嫌い。

泰造は明美の出方を伺っている。

明美、その辺りの布をくるくるとまらめ。

明美 (琴子に渡す) はい、これは生後1ヶ月の赤ん坊です。

琴子 え、は、え？

明美 落とさないように、抱きしめてね。

琴子、布の塊を抱く。様になっている。

明美 赤ちゃんをあやして。

琴子 (無言で揺らす)

明美 産休中の午後。おっぱいをあげたら、赤ちゃんが寝てくれました。  
泰造 びゅうう……びゅうう……効果音です。

まるで吹雪の東屋に住む、母子のようだ。

明美 外は吹雪ですが、家の中では灯油ストーブがぬくぬくとした空気を放っています。  
す。どんな人生の苦しみも、今は遠くに感じられます……ここは、あなたと赤ちゃん二人きりの安心な空間……

泰造 びゅうう……びゅうう……（効果音）  
琴子 ふふふ、かわいい。

琴子、ぎゅっと布を抱く。

明美、泰造を引っ張る。

明美 素質あるよね、あの人？

泰造 まあ、思ったよりは。

明美 しかも事務仕事やれる。有能。

泰造 それなら明美さんのほうが。

明美 嫌いなのに、助成の書類作ったんだよ？

泰造 しかしですね。

明美 あちらさん金もあるみたいだし。甚兵衛さんにヨロシク。  
泰造 はあ……。

携帯電話を触り始める泰造。  
明美、演技に没頭している琴子ににじりよる。

琴子 わっ（驚きつつ、布を丁寧に置く）

明美 楽しいでしょ、演劇。

琴子 いや……いやじゃ、ないけれど。

明美 じいさんばあさんのお金使って、一緒にバカやりましょうよ。

琴子 やめてください、そんな勿体無いこと。

明美 ためしに声出してみましょう。はい、客席に向かって。

琴子 真っ暗なところに、人がいたら……

明美 はい、お腹から喉までまっすぐ、ボールを投げるように（発声）あー！

琴子 ひあー。

明美 一番向こうの席に留五郎が座ってる。

琴子 ああああああ！（咆哮）

明美 その隣はキミエ！

琴子 おおおおおお！（咆哮）

明美 その遠吠えに、気持ちを載せて！

琴子 ん？ 夕日のばかやろー？

明美 違う、もっと具体的に。

琴子 留五郎の、ばかやろー！

明美 いけー！

琴子 十五万出すなら孫に使いやがれー！！

泰造 (携帯電話を見て) はい代表の〇〇が出ました。「あくまで留五郎さんたちのお金でコラボしてくれるなら、ぜひ合同公演させてください」と、甚兵衛さんが言ってます。

明美 来た来た。

泰造 「台本はこちらで書きますと、梅の園さんにお伝えください」

琴子 ちよつと、ちよつと！

明美 あのね。梅の園の窓口は琴子さんだけ。練習が始まるまで、他の人は来なくていい。つまり、予算を絞るのは琴子さんの思いのまま！

琴子 ……お。

明美 うちのはうちのやりたい舞台をやる、留五郎さんたちがそこにちよつと参加する。ね？

泰造 とりあえず、来週から台本の話し合いを、します！ しますっただらします！

琴子 台本って？

泰造 俺、先に事務室に行ってます。土曜日の予約を押さえますね。

明美 頼んだよー。

泰造、下手側に去る。

琴子 待つて……シロートなのにこんな大きな会場借りて……

明美 助成金。町内会。

琴子 うっ。

明美 絶対、絶対楽しいから。留五郎さんたちも絶対ハマりますから。約束する。

琴子 ……信用できません。

明美 (はっしと琴子の腕を捕まえる)

琴子 ぎえ。

明美 逃げちゃダメ。あなたと私たちは運命共同体……(悪い笑い方) へっへっへ。

ハイ、一緒に。

琴子 へ、へ?

明美 キミエがドブにハマって犬の糞ふんづけたってよ。

琴子 へっへっへっ……

明美 うまいじゃーん。

琴子 へっへっへっ……

転換。

〈第二幕〉

明美のモノローグ。

明美 琴子さんはめっちゃや舞台を嫌がってたけど、私はあの人、役者向きだと思う。そもそも最初から役者がやりたいなんて言う奴は信用ならない。人前に立つのが苦手な人間は、むしろ、他人に話を聞かせるには意味が必要だって分かっている。意味がなければ怖いと思える人間こそ、深く自分が好きで、同じくらい周りの人間をよく見ている。言いたいことがあっても我慢して、選ばれるのを待っている。役者向きでしょ？ 私たちをバカと言っていた、琴子さん。きつとたくさん人に言えない思いがある。甚兵衛さんの台本で、人前で喋る意味をもらえればいい。ぜったい光るぞ〜！ ……ま。とは言え、実際のところあまり期待はしていない。あの子のおかげでウチらの予算の金が二倍になれば、へっへっへっ……（職場で話しかけられた）え……あたしが新しい店のリーダーですか？ このタイミングで……いや、やれる。絶対やる大丈夫。あたしは、やれる！

明美が話す間に、転換している泰造と琴子。

明美が去る。

日が変わって、第一幕の翌週の土曜日。

泰造は掃除など動いている、琴子は舞台のそでに隠れている。

泰造 松子さんが、やりたくない？

琴子 (大声) そーなんです！

泰造 ところで誰です、松子。

琴子 (大声) うちのキミエの親友で、梅の園の立ち上げメンバーの一人です！

泰造 おいくつですか！

琴子 (大声) たぶん、八十二！

泰造 ああ、ところで！

琴子 (大声) はい！

泰造 遠くないですか！

琴子 (大声) 出るのは無理です！ あと、ここだけの話！

泰造 めちゃくちゃでつかい、ここだけの話です！

琴子 松子、留五郎の最初のオンナです！

泰造 あーあ。劇団内恋愛はやめたほうがいいですよ。

琴子 は！

泰造 劇団の中で付き合ったり、離れたりは、やめた、ほうが、いいですよ！

琴子 六十年以上昔の話です。当時、留五郎と松子が結婚するはずでしたが、キミエ

が「やだやだあ、留五郎さんはおれんだあ」親にごねて横から、ぶんっ（取る動作）……ゴールイン！

泰造 略奪婚。ぎすぎすしませんか。

琴子 してます、してます。キミエと松子は親友なんだけど、いつも張り合って。

泰造 いっそ松子さん外しましょう！

琴子 そしたらキミエが出ないそうです。

泰造 複雑！……じゃあ、松子さんは何を嫌がっているんですか？

琴子（携帯電話見ながら）「ドーせ、若い人たちと一緒にでも、あたしたちのお金使うだけで、台詞なんて一言くらいしかくれないでしょ」

泰造 勘がいいな。

琴子 でもね、セリフ？ たくさんあっても松子は覚えられないんですって。

泰造 八十二ですもんね。

琴子 松子よりうちのキミエのほうがボケて無いんで。松子はそこそ間違えてもいいセリフ増し増しってできますか。

泰造 そんなトッピングみたいな。

琴子 できないんですか？

泰造（むきになり）甚兵衛さんに言いますよ。うちに不可能とか、無いですから！

泰造が携帯電話を打ち始める。

打ち終わると上手から小道具の入った箱を出し始める。

琴子 (泰造が打つ途中から) あの今日も、代表の方は? (来ないんですか)

泰造 甚兵衛さんは特殊な仕事で、一回こもると三十六時間くらい山の上から降りられないんです。よし…… (送信した) ケータイは通じるんですけど。

琴子 マタギみたい。じゃあ……ここのお金って。

泰造 今日はコハビタスで持ちます。会計の明美さんがいいって言ったら、いいんです。

琴子 明美さん強い。イヤじゃないですか?

泰造 なにが?

などと話しながら、泰造は座る椅子を台拭きで拭いたり、袖から掃除機を出して周囲を掃除する。

琴子 泰造さんのほうが偉いんですよ。

泰造 いやいや、明美さんはキツく見えますけど。ものすごく有能で役者としても勘が良いんです。尊敬するところじゃないです。あの人、高校を卒業して東京の劇団に所属して、芸能人の付き人やったりして経験値も凄くて覚悟もあって……俺なんか副代表といっても教えられることのほうが多くてですね。あとあと……

琴子 長い、説明が長い (笑っている)

泰造 なんで笑ってるんですか。

琴子 泰造さん。

泰造 なんですか！

琴子 ご飯に誘ったりしないんですか？

泰造 誘いませんよ。

琴子 劇団内恋愛やめたほうがいいんじゃないですか？

泰造 失礼な。俺たちは、恋愛とか超越してるんです！  
ですから！

明美がやってくる。よろける。

泰造 大丈夫ですか！

明美 ごめん……遅れた？

泰造 少し早く開けてもらったので。

泰造の出した椅子に当然のように座る、明美。

明美 新しい職場、早起きしないと間に合わないって思ったたら、ぜんぜん寝れなくて

さ。危ないから車置いてきた。

琴子 泰造さん、乗せて行ってあげましょう。

泰造 あっ、もちろん。

明美 いい。はー……（ため息）

泰造 お疲れですね。

琴子 でもお、お芝居やる人って体調悪いほうがいいんですよね？

明美 は？

琴子 「病んでるほうがいい演技ができるのよ」って、松子が言っていました！

泰造 琴子さん……（制止したい）

琴子 「少しくらい酒入ったほうがテンション上がるぜ」って、友蔵さんも山田さん

も言うし……それに留五郎が、「昔の大作家はなあ本番の前の晩に、やっと台本が書き上がったんだ、そこから明け方まで練習して……」

泰造 琴子さん！（止める）

琴子 なにか？

明美 （雄たけび）ぎよええええええ！

泰造 どうどう、どうどう。

明美 そういうちよつと体調悪い方がベストなんて信じている奴は！ ちよつと体調悪いラインで、常にキープしとけ！ 倒れもせず立ち上がりもせずキープする努力をしろ！

琴子 練習はじまっていますか？

泰造 鎮まりたまえー鎮まれーやさしくやさしくー初心者にやさしくー

明美 いいか、野郎ども。体調悪いときに出てくるのが実力みたいに言うならなあ、

二日酔いが覚めたら酒を飲み十五時間寝てしまったら今日は徹夜をして、ちよつとだけ、ちよつとだけ体調悪いラインから出ないように、慎重に慎重に毎日具合悪くして、台本は、半年前には、書き上げろ！

琴子　なんか、地雷踏みました？

泰造　だいたい甚兵衛さんがやらかしてきたので……

明美　はっ……ごめんごめん。誰か嫌がってるって聞こえたんだけど、気のせいかな？

泰造　梅の園さんのトゥトップ女優がたくさんセリフ欲しいそうです。

明美　そつかあ。甚兵衛さんに増やしてもらおつか？

泰造　それが、覚えられないんですって。

明美　（雄たけび）ぎええええええ……

琴子　すみません、これ、シヨツカー？

泰造　鎮まり……

明美　芝居、なめてんのか？

琴子　だってDVD見ましたけど、皆さんすごい！あんなたくさん覚えられるなんて、マジ天才？

明美　普通だから。セリフ覚えるのは、練習始める前の段階だから。最初の一步踏み出す前の靴履いて玄関に立ったところだから普通だから。

泰造　普通、二回言ってますよ！

琴子　……

明美 私たちはそこ褒められても、ちつとも嬉しくな、  
泰造 ……と、甚兵衛さんがよく言うんですよね！ すみません！ 琴子さん、こ  
れ！

泰造、小銭入れを渡す。

泰造 玄関の自販機で、温かいお茶をお願いしますか。  
琴子 は、はい。

琴子、去る。

明美 ……ごめん。

泰造 まあまあ。

明美 熱いのは、泰造君の役なのに。

泰造 話くらい聞きますよ。

明美 ああ、もう。琴子さん可愛いよね。

泰造 普通ですけど！

明美 そ？ いい雰囲気じゃん。

泰造 人妻ですよ。

明美 そだね……はー（ぐったりする）

泰造 (誘いたい) あのー……今日、飯は？

明美 あ？ チャーハン食べてきた。

泰造 ……そっすか。

明美 あれ、なに？ 昼食べてないの？ 大丈夫？

泰造 とにかく、ほら！ 琴子さんに親切にして乗り気になってもらわないと！

明美 そうだ。うちの金ヅルだもんね！

泰造 (少し退いて) ああ、そうですね……っと。

琴子、走って戻ってくる。そでから少し出て引っ込む。

琴子 ただいま戻りました！

泰造 足速いですね！

琴子 子ども追いかけて鍛えてるんで。明美さん、キャッチしてください！

明美 ……いや、そっちで飲みますから。

琴子、お茶を明美に渡す。

明美、ロビーで飲むために一度去る。

琴子、首だけ出して。

琴子 で、あの！ 続きなんですけど！

泰造 え、どれの？

琴子 セリフが覚えられないなら、一文字ずつ喋ったらいと思うんです！

泰造 それって一つのセリフを分解するってことですか。

琴子 そうですそうです。「青い空」だったら。「あ」

泰造 「お」？

琴子 「い」

泰造 「そ」

琴子 「ら」……ね、一人ずつ覚えてなくても、なんとかなる！

泰造 楽しいですかね？

琴子 うちの子も分解すると何が出てくるだろうって、わくわくしてくるんで。ほ

ら泰造さん、あなたのこと「す」？

泰造 「き」……じゃないですよ明美さん！

明美、奥から戻って来かけていた。

明美 なによ？

琴子 ほら楽しい。

泰造 いや、しかし……こんな電報みたいな喋り方で、話が進みますか？

琴子 ダメかあ。

明美 (優しくしろ、アクション)

泰造 いやダメ……ダメじゃないですけど……とりあえずこっちに来ませんか。

間

携帯電話の着信音。

琴子 あ、留五郎からです。

明美 なにかありました？

琴子 (読む) 「台本書いてくれるなら」「できればな、できればいいけども」

泰造 じいさんの「できれば」は「絶対」ですね。

琴子 「奈落に落ちながら『さらばだー』って、親指立てて溶鉱炉に沈んでみたい」

明美 奈落も溶鉱炉もホールに無いわあ！

泰造 どうどう！ 奈落があるのは歌舞伎舞台ぐらいです。

明美 留五郎に言っとけ！

琴子 はい！ お、ま、え、が、な、ら、く、に、落、……間違えた。

泰造 呪わないで。

泰造の手元の携帯が鳴る。

泰造 あっ。山にいる甚兵衛さんです。なになに「台詞が少なくても、派手な装置を

立てれば梅の園さんもやる気が上がりますよ。そう例えば『お』……（明美の顔色をうかがう）

明美 お、なんだって？ 言ってみな？

泰造 「お江戸でござる、みたいな、江戸時代の屋敷はいいよね」

明美 時代劇！ 予算残らんわ、あの代表！

泰造 「Sやらなきやいいんでしょ、明美ちゃん」

明美 開き直るな！ 誰が食い潰したと思ってるんだ。奈落も巨大装置も却下よ！

琴子 あの……

明美 ああ、すみません、うちの甚兵衛がね。無駄遣いさせないように気をつけますのでね……とところで、松子さん以外に、梅の園で台詞が覚えられないとか、体が動かないって人はいますか？

琴子 そうですね……岡本のばさまは膝が痛くて三十秒しか立てないし、佐藤のじさまは春先に圧迫骨折してまだ痛がってましたね。友蔵さんはなんかいろいろ数値が悪くて、小松さんは二年前に中って（あたる…脳卒中）、山田さんも中って奥さんちよつとボケ入ってて息子が飲んだくれで……薬さえ飲んでればぎりぎり健康なのが、キミエと留五郎と松子、

泰造 もしかして全員？

琴子 平均年齢八十歳。

明美 ……芝居なめてんのかー！

琴子 でもお。

泰造 明美さん、優しく優しく。

明美 だって、つまり。舞台だけはバリアフリーにはならないですから。役者やるなとは言いませぬけど。立てない人は立てない役で我慢して欲しいなって思っちゃいますよ。いや別にやるなどは言わないけど、やらないで欲しい、お気持ち、みたいな！

泰造 あっあっ、つまり体力勝負なところがあるので。

琴子 ……………

泰造 もちろん皆さんに台詞はありますよ！

琴子 そうですよ。お二人だって、年取ったら辞めるんですよ……。

泰造 えっ……

明美 えっ……

琴子 若くてピチピチで元気じゃないと、舞台なんて立つちゃだめですよ……。

明美 (急に背筋がのびる) そうね。台詞覚えられなくなった役者なんてあたしの美学に反する。

泰造 俺は死ぬぎりぎりまでやりたいかも。

明美 はあ？

泰造 だって、おじさんになったらおじさんの演技が、じいさんになったらじいさんの演技が出来そうじゃ無いですか。そういう肉体の。

明美 (泰造のお腹を、ぽよん)

泰造 鍛えても鍛えても。

明美 (ぼよん)

泰造 時の流れとともに衰える部分にも味が、

明美 (ぼよん)

泰造 やめてください！ セクハラですよ！

明美 腹筋さぼってる。

携帯の着信音。

琴子 (携帯電話を見て) あっ留五郎からです……「テント芝居なら情熱さえありや

あ、台詞は二の次だ」……テント芝居ってなんですか？ キャンプ？

明美 げっ。

泰造 どうしました？

明美 ちよつと来て。

泰造、明美 離れる。

明美 留五郎さん、かなり見てるよ。

泰造 え？

明美 テント芝居とか言ってきた。アングラだよ。

泰造 世代的に流行ってたんですかね

明美 え、時代が……もつとオシヤレよね？

泰造 でも奈落ですよ（笑）

明美 ふふ。だけども、このままじゃホール使わなくなっちゃう。

泰造 ……まずい。

明美 誘導しないと。ホールの魅力を伝えないと！

琴子 あのう……

明美・泰造 はい！

琴子 留五郎が「一生に一回くらい、テント芝居やってみたかった」とか書いてるんですけど。すごく嫌な予感がします。

泰造 あーそうですね、テントというのは……（明美に助けを求めろ）

明美 ヌードいけますか、ってキミエさん松子さんに聞いてみてください。

琴子 ……はああああ？ 誰が見たいんですか。たちねのばあちゃんたちの？

明美 留五郎さんもお願ひします。アングラやるんだったら。台詞言えない代わりに体張れますかって。

泰造 （笑って）股引くらい履いてもいいですよ。

琴子 ふ、く、を、ぬ、げ……（打ち込み始める）

泰造 あっ、これ冗談ですから！

琴子 送っちゃった。

泰造 うちの劇団の品性が！

鳴り続ける着信音。ぴろん。ぴろん。ぴろん。

琴子 わあ、みんなやる気です。キミエも松子も「こうなったらヤケだわ」「冥土の土産に見せてやろう」って。

泰造 それ冥土に渡るほうのセリフじゃない。

明美 たらちねもたらちんこ……

泰造 明美さん、元気出てきましたね。

別の着信音。

泰造 甚兵衛さんからです……なになに『照明がぴかぴか派手なら、とりあえずバエますよ』？

明美 (自分も画面見つつ) また、あの人は金がかかることばかり。

琴子 照明ってこのヒカリ？

明美 ピンとこない？

琴子 梅の園はいつも蛍光灯なんで。明るいか暗いかってそんなに関係ありますか？

明美 じゃあ、一回暗転します。

舞台全体が溶暗していく。

琴子 え、え、え！  
明美 サス、つけて！

サスペンションライトが点き、琴子を抜く。  
明かりから飛び出る琴子。

琴子 やだやだ！

明美 (引き戻す) 入って入って。ここに立って、なんかセリフ言って。はい。

琴子 ふっ震えが止まらない。

明美 じゃあね。「キミエいつか倒す」……はい！

琴子 (没入) 「キミエ、いつか、倒す！」

銅鑼のような音響が響く。「じゃーん」

泰造 動かしていいんですか。

明美 ほんとはだめだけど、照明の鈴木と音響の佐々木に来てもらったの。気分、上

げてこ！

泰造 いつの間に。

明美 おーい鈴木！ 元気？

調光室から手を振る気配。

泰造 あなたも鈴木ですから。  
明美 地明かりに戻してー。

照明が初期状態に戻る。

琴子 落ち着いたあ。  
明美 作業灯つけてー！

作業灯がつく。

琴子 あれ……？  
明美 これがいわゆる蛍光灯ね。はい、台詞！  
琴子 (気持ちに乗らない) キミエいつか倒す……んん？  
明美 泰造君、そこで動画撮って。

泰造、舞台中央を外れ携帯電話を構える。

明美 はい、琴子さん、ここは「森」！

照明変わる。

緑を基調とした照明。心なしか音響も「さわさわ」葉ずれの音。

琴子 「キミエー！ キミエー！ いつか、いつか倒すー！」  
明美 探してる、森をさまよい探し求めてる。……「海」！

照明変わる。

青を基調とした照明。心なしか音響も「ぱちゃぱちゃ」波の音。  
ポーズを取る琴子。その姿は、ボラードを踏む船乗りのようだ。

琴子 「キミエ……いつかおめを……倒す……」  
明美 水平線が見えてるよ！ ……「火事」！

照明変わる。

赤を基調にした照明。ごうごう逆巻く炎の音。

琴子 「キミエいつか倒おおおす！ はっはっはっ。あーはっはっはっ！」

照明、初期状態に戻る。

琴子 はっはっ……あー……声出たー。

泰造 こんな感じですよ（携帯電話を見せる）

琴子 ふわっ恥ずかしい……あ、でも……

明美 つぼいでしょ？

琴子 カッコいい。

泰造、明美、合図を送り合う。

琴子 うーん。

明美 なに？

琴子 （携帯電話を返して）でも、もったいない気がしてきました。じいさん

たちにこんな本格的な舞台を使わせても……（携帯電話を見せる）ほら、留五郎も「やだやだあテント張って外でワイルドにやるのがいいんだあ」って。

泰造 たちねのヌードとか明美さんが焚きつけるから。

明美 ちっ、河原でやってろっての。

琴子 ヒーローショーみたいに野外じゃだめなんですか？ 大きなテントを木と木に

吊るして……

明美 大自然の中でやるのは過酷ですよ。

琴子 でもタダだし……

明美　じゃあ、やってみましょう。たとえば、ここは城址公園です。泰造君、なんか適当にセリフ喋って。

泰造　てきとうと言われても困ります。

明美　なんでもいいから。琴子さんと私はお客さんの役。来て来て（座れ、と示す）

琴子　ここですか？

明美　今は、昼の森！　ハイ！

先刻の森の照明に変化する。

うるさすぎる蝉しぐれと、ヤブ蚊の飛び回る音。

並んで座っている明美と琴子。

泰造　えー、あー（てきとうなセリフを言う）

明美　（虫をたたく。ぱちん、ぱりぱり）

琴子　（ぱちん、ぱりぱり）

明美　（ぱりぱりぱりぱり）……夜の森！

夜の照明に変化。

ヤブ蚊の飛び回る音は高まる。

泰造　（続ける）

明美 (ぼりぼりぼりぼり、ぱちん、ぱちん) (羽虫を追っ払う)

琴子 (羽虫を追っ払う)

明美 (羽虫を追っ払う)

琴子 (羽虫を追っ払う) 虫、すごいですね！ 城址公園！

明美 問題は虫だけじゃ無いよ……今度は冬！

薄暗い冬の日の照明。木枯らしの音。

雪を示すミラーボール等を使用して可。

琴子 ざざざ、ざむい……

泰造 (脈絡なくセリフを盛り上げ、躍り狂う)

琴子 じいさん！ 戻って来お！ 病院行くべ！ ざざ、ざむ……

明美 ねえ……留五郎は本当に楽しいと思う？あんな涙か鼻水かわからないもの垂ら

して、霜焼け作って。これが留五郎の求めたワールド？

琴子 寒う……見てるほうも鼻水が。

明美 ここで灯油ストーブが出てきます。ぴっ (点火)

物陰から灯油ストーブを出す明美。

琴子 (ストーブに当たる) ふー、あったか……

この間にも、踊り狂いながら勝手なセリフを続ける泰造。

明美　ところが、ストーブからテントに火がつかしました。

火事のときの音響。はぜる木材と爆風。

「ぱちぱち、ごごごごご……」

火事の照明で舞台は赤くなる。

琴子　消さないと。消火器！　ひやくじゅうきゆうばん！　みんな、逃げてー！

消火に奔走する、琴子と明美。

明美　木に燃え移った！

琴子　山火事になっちゃう……ひ、ひー、ひやつひやひや。ひーっひやつひや（高笑い）

明美　お、壊れたぞ。

琴子　キミエいつか倒おおす……！（咆哮）

照明、初期状態（地明かり）に戻る。

明美、灯油ストーブを片付ける。その間に、

琴子 ……なるほど。

泰造 一言でも、俺の言ったセリフ思い出せますか？

琴子 だめ。外は無理っていうのが伝わりました。

泰造 俺もテントの過酷さが滲みましたよ。

琴子 外でやったら梅の園のじいさん、ばあさん、ぜったい誰か死にそう……キミエとか。

明美 (戻ってくる) キミエ、ピンポイントね。

琴子 体壊されたら治療費がもつたいないんで。野外、ダメ、ぜつ、たい (携帯電話に打つ)

泰造 やっぱり劇場っていいものですね。

明美 そりゃね。うちらには見せるための工夫が詰まってるし、お客様も芝居見ながら凍え死ぬ心配は無いからね。

泰造 たまに尖ったことしてみたいですけどね。

明美 脱ぐ？

泰造 冗談です。

琴子 よし、諦めさせました！

明美 じゃあ、とりあえずホールを使うのは決まりね。

泰造 ……ではまた来週！

転換

〈第三幕〉

泰造のモノローグ。

泰造 明美さんは後輩を一生懸命育てます。俺が惹かれるのは、あの人のそういう必死なところですよ。自分が努力するだけじゃなくて、人を引っ張り上げてくれる。明美さんの半分は、今も東京に生きています。常に全力でぶつかって、自分がやり切れなかった東京での生活を見返してやろうと思いつめています。この場所で演劇だけで食べていくのは、まさに夢物語のような生き方です。あの人は夢を現実引っ張り上げたいんですよ。……俺は、どうしたいかというところ。そうですね。明美さんが、そうやって演劇に打ち込んで誰かの世話を焼いている横で、俺が準備した椅子にふと腰掛けて休んでくれるような、そういうポジションではない。ずるいかもしれませんが、この前まで俺にとつての演劇って、明美さんだったんです……だけど最近、考えるんですよ。俺はもしかしたら、自分で思っていたより演劇が好きかもしれない。梅の園のじいさんたちみたいに、立てなくなっても

ずっと舞台に立ちたいのかもしれない。だったら今から、何ができるんだろう……  
みんなで相談を重ねるうちに、二月になりました。

第一幕から数週間たった、二月。

泰造が話す間に、他二名で転換を終える。

泰造は去る。

土曜日のホール。少し薄着になっている。

明美と琴子が、呼吸を背中に入れる練習をしている。

琴子 ふー……すー……

明美 うまいうまい。ちゃんと（背中に）入ってますよ！

琴子 （起き上がって）ふは。これ痩せそう。

明美 と思うでしょ？ 関係ないんだな！

琴子 じいさんばあさんも急にやり始めたんですけど。あーキツ……

明美 琴子さんは？ 出ないの？

琴子 まさかまさか。

明美 そろそろ舞台も慣れたでしょ？ それとも、留五郎さんがヤな顔する？

琴子 いやあ。留五郎とか友蔵さんは女子に甘いんですよ。ばあさんたちが……

明美 蹴散らしちゃえばいいじゃない。キミエも松子も。で、琴子さんが主役を略奪

……

琴子 そうはいかないです、孫嫁ですから。

明美 つまんないの。

琴子 あたしが黙って動いていたほうが、スムーズだし、みんな気分いいじゃないですか。  
すか。

明美 琴子さんのそういうところ、嫌いじゃないけどね。

二人で椅子になるものを出しつつ。

琴子 それ、よ、り、も（近づく）

明美 はい？

琴子 明美さんは、泰造さんのこと、どうですか？

明美 え、黙って動いてください。

琴子 そこで聞いてましたよね、この前。

明美 見えてました、隠れてたの？

琴子 あんな優しい人、めずらしいですよ。

明美 優しいだけじゃなくてダメな時はダメって言うてくれないと。

琴子 言われたら怒るくせに。

明美 劇団内のバランスっていうのがあって……

琴子 蹴散らしちゃいましょうよ。誰かに取られちゃいますよ。

明美 ……びびびと、来ない。

琴子 なに？ 電流？

明美 そう。あたしは人に好かれるより、あるとき感電したみたいに、びびびつ、と自分から好きになりたいんです。はいはい、練習練習！

琴子の携帯電話が手元で鳴る。

琴子 あ……キミエだ。

明美 今度は大奥様ですか。

琴子 留五郎、テント却下されて落ち込んだじゃった。

明美 で、キミエの無理難題は？

琴子 なんですかこれ。「あたしは静かな芝居つてのがやってみたいねえ」？

明美 あー……出たー。

泰造、やってくる。

泰造 何が出たんです、妖怪ですか。

明美 静かな芝居。妖怪できもしないナチュラル大好き。

琴子 どういう……。

明美 出来るかなあ。ねえ、泰造君。ぜったい声張らないで、普通のおしゃべりみたいに話してね。

泰造 はい。

明美 琴子さんも普通のまま。泰造君は、琴子さんの旦那さん。座って座って。……

ハイ!

琴子 明美さんが。

明美 いいから(押し出す) ハイ!

泰造と琴子の寸劇が始まる。

琴子 (腰掛けながら) 「どうしたの?」

泰造 「あのさ」

琴子 「なによ」

泰造 「うん……」

琴子 「言ってよ」

泰造 「いや」

琴子 「変なの」

泰造 「だけどさ」

琴子 「うん、聞くよ」

泰造 「二千」

琴子 「ん?」

泰造 「二千まん……連帯保証人になった……」

すうつと立ち上がる琴子。大声で、

琴子 静かに言つとる場合かあ！

泰造 ごめん……

琴子 謝つとる場合か！ 今すぐ燃やせ書類を取り返せ。燃えろ燃えろよ城址公園。

泰造 琴子さん、芝居です芝居。城址公園を燃やさないで。

琴子 ……すみません、過去の思い出が。

泰造 あったんですか。

明美 とまあ、こういうしつとりしたのが「静かな芝居」？

琴子 あー、じいさんたちでもやれそう、かな。

明美 だけどねえ。飽きられないように設定を作り込まないとならないのよ。

琴子 へえ。

明美 いろんな人が居て、当たり前前の状況を考えてね。

泰造 老人も若者も、ですよね。えーと……

琴子 スクランブル交差点！

泰造 どこにあるんですか。

琴子 駅前……

泰造 あれスクランブルじゃないでしょう。老人が歩いて……キキーって車に轢かれ

る話しか思いつかないです。

明美 もうちよつとゆつくり座つていられる空間……

琴子 あ。病院の待合！

明美 いいじゃない！

琴子 でも、うちのじいさんばあさんがやると……（寸劇、泰造の肩を叩き）  
「だな？」

泰造 「あ？」

琴子 「だな！」

泰造 「あ？」

琴子 「あんべわりいな、つて言っただの！」

泰造 「んだな」

琴子 ……って、体調の悪さを延々話すだけになりませんか。

明美 ……やっぱり琴子さん出ようよ。

琴子 やですよ。

泰造 しかし、たとえばこのあと、爺さんが死の病を宣告されるとしたら？  
緊張感が増し増しです。

琴子 ええましまし〜（笑っている）

泰造 美しい売店の娘が出てきてですね……

明美 誰がやるのよ売店の娘。花売りみたいに言うけど。

明美、泰造は順番に琴子を見る。

琴子 いやいや出ませんよ。

泰造 (携帯電話を見て) ……だめです、甚兵衛さんから病院の話はるが出てます。

琴子 なんで？

泰造 「病気と死ぬのはリアルすぎて重すぎる」

明美 なになに(携帯電話を見て) 「梅の園のお客様も見にくるから、いつもより年

かさの人たちの気持ちも考えないといけません」

泰造 「あちこち痛いとか死ぬとかの話はやめましょう」

琴子 お客さんの気持ちまで考えるんですね！

泰造 ……たぶん。

明美 ……たぶん。

琴子 あんまり考えてないんですか？

明美 考えてるかな、余裕があるときは！ とりあえず梅の園さんの要望、全部教えてください。

琴子、携帯電話を見る。

琴子 うっ(隠す)

明美 見せて。

琴子 いや、ひどい。ほんと。

泰造 どんな無茶振りでも甚兵衛さんは台本にします。

琴子 あたしの口からは。(携帯電話を渡す)

明美 (受け取って) なになに……「主役がやればなんでもエエ」ばい、留五郎。

泰造 欲望に正直!

明美 もうちよっと控えるよね。

琴子 古い先短いんで控えている時間は無いんです。(返してもらって) 「いい台詞

明美 が言いたい」ばい、キミエ。

明美 キミエも正直。

泰造 (覗いて) 「いい台詞はあたしのもんだ」ばい、松子。

明美 松子も正直。

泰造 キミエさんのライバルですからね。

### 間

明美 ふふ……何笑ってんの。

泰造 いや、どうしても……ふふ。

明美 強いな、八十年生きたパワー感じるな。

泰造 これぐらい我々も甚兵衛さんに要望出して行きますか。

明美 要望じゃなくて欲望でしょ。

琴子 大丈夫ですか、甚兵衛さん怒りませんか？ わがままじいさんばあさんのために  
台本を書けとか。

泰造 あ、メッセ来た。「とりあえず重くなり過ぎないで、留五郎さんとキミエさん  
と松子さんに台詞がある芝居を書けたらいいなあ」。

明美 弱気じゃん。でもさ、老人が十人近く出るって、日常でそんなシーン無いよ  
ね。

琴子 フツツの家……とかだめですか。えーと、おじいちゃん、おばあちゃん……も  
う一人おばあちゃん？

明美 待って、もう松子の存在がやばい。

泰造 三角関係。家の中に謎の三角関係ですよ。

明美 あと家族って、そこにいるメンバーの説明しにくいのよ。登場人物が、さっき  
のばあさん二人だったりすると、「誰。なんでじいさん一人にばあさん二人な  
の？」って思われるんだけど……言えない！

琴子 言えない？

明美 ちよつと箱出して来よう。

箱型の装置を出しながら。

明美 これ、コタツ。

泰造 はい。

明美 実家の居間。琴子さんそっち。

琴子 ……はい？

明美 あたしがおばあちゃんよ、泰造君はおじいちゃんよ、琴子さんもおばあちゃんよ。設定は各自で考える。ハイ！

寸劇が始まる。

琴子 「あー、いい天気ですね、宮林署勤めの定年退職後はシルバーセンターで働いているおじいさん？」

泰造 不自然（笑う）「そうだな、ある日道端で子猫みたいに泣いていた、おばあさん」。

明美 そっちのおばあさん拾って来たんかい。

泰造 「あつ、姉さん。十二年ぶりに帰ってきて同居してから一ヶ月になるうかという俺の姉さん、今日はどこに行って何をするんだい？」

明美 あたし姉さんだった。じいさんの愛人じゃなかった（笑って）「そうだねえ、畑に行つて冬でも収穫できる大根をとつて来ようかねえ」。

琴子 あゝ！

泰造 なるほど。

明美 変でしょ会話。

琴子 変！

明美 もつとうまくやるならね。泰造君、こつち、私とチェンジ（泰造と席順を変え  
る）で、琴子さんは、おばあちゃん。私はお友達のおばあちゃん。泰造君は私の  
弟。ハイ！

寸劇が始まる。

琴子 どうもお（会釈）

泰造 ほ……本日はお日柄も良く……

明美 ちよつと泰造。

泰造 どうも……こういつた席は。

琴子 （笑顔で会釈）

明美 まっこの人ったらキンチョーして。琴子さん、泰造はあたしの三つ下の弟。ほ  
ら営林署に勤めてた弟ってこの人よ。今はね、定年でシルバーセンターに移って。

琴子 ああ！ 聞いたなあ！

明美 十二年ぶりに一緒に住むのに、ちつとも家にいやしないの。

泰造 じつとしてられねタチで……

琴子 ウチの柿の木の剪定さ、シルバーの人さお世話になりました。

明美 今度からあたしに電話しようだい。すぐ寄越すから。泰造、こちらの鈴木琴子  
さんは畑が趣味なの。ほら、この前あなたもいただいたでしょ？

泰造 あ、大根（でえこん）の。

琴子　しよし（恥ずかしい）。冬でも採れるもの。良くできたって思ったのはオレだけかもしれないけど。

明美　ほんとにおいしかったわあ。じゃ、あとは若いお二人で。なんて、まっ！あたしちみんな八十も越えたジジババなのにね、若いも何も無えってね！　じゃあね、じゃあね。

明美、立って距離を取る。

琴子　泰造さん、ご趣味は？

泰造　私はその……歌を少々。

琴子　歌っこ？　民謡ですか？

泰造　いえ、長唄を少々……

琴子　長唄。あー長唄……（良く分からない）

泰造　どうも。すみません。なんもおもしろえぐねえ男で（面白味の無い男で）。

琴子　なんもなんも。明美さん強引だべ。断れねよ。

泰造　琴子さん、大根以外になにか栽培されていますか。

琴子　栽培って営林署の木じゃねのよ（笑う）今の時期だば大根、白菜、玉菜……夏はズッキーニ、トマト。

泰造　豊かな生活でいらっしやる。

琴子　豊かものなんも。うまくいがねえ年は、ダメんなった白菜ずらっと並べて、道端

で子猫みたいに泣いて泣いてね。

泰造 あなたは、あの道端で泣いていた……！

琴子 あっ………！

明美、割って入る。

明美 はい。と、いうように、おじいさんとおばあさんがお見合いするシーンにす

れば、おじいさん、おばあさん、おばあさんが成立します。

琴子 ほんとだ。

喋りながら、机を寄せる三名。

泰造 はい。（手を上げる）

琴子 はい？

泰造 先週、帰りに運転しながら思ったんですが……梅の園さんは、老人を演じるんですよね。

琴子 え？ そりやそうだと思いますけど。。

明美 命題だね。老人は老人を演じたいだろうか？

琴子 そもそも、あの人たちに老人の自覚があるのかですよ。

明美 まさか。老人なのに自分を老人だと思っていない？

泰造 この年になると感じませんか。人間、二十五歳超えたら、成長……

明美・琴子 しない！

明美 あたしも自分の歳、忘れてることあるわ。あ！ はーい！

琴子 ドウゾ。

明美 いっそ……逆転してみない？

琴子 何を、立場？

泰造 若者が老人を、老人に若者の役をやらせる、ってことですか。

琴子 いいですね。ウケるかも。あ。それで年齢逆転の老人ホームなんて、どうです

か？

明美 面白そう。老人たちが職員で、ウチらが老人で？

泰造 ……それはちよつと止めたほうがいいんじゃないでしょうか。

明美 どうして？

泰造 俺たちはこう……4ヘルツで手を震わせたりして。(実演)

明美 周波数かよ。

泰造 甚兵衛さんが「老人らしさは手を4ヘルツで振るわせると出る」って言うん

で。やります！

泰造、手を震わせながら及び腰で歩く真似をする。

琴子 おー、つばいです。

泰造　じゅげむじゅげむ……

言いながら、よろよろ進む泰造。前によろけて見せる。

琴子　ぶー。プロは後ろに転びます。

明美　さすが普段から見てる人！

泰造　ですが、これを実際は転びそうも無い俺たちが、老人の隣で演じるんですよ。

琴子　あ……

明美　うん？

泰造　侮辱だと思われませんか。

琴子　嫌な気分させるかも。あ、ハイ。

明美　時間？

琴子　とりあえず敬語やめませんか？

明美　そっちか。あたしはいいけど。

泰造　俺は……あんまり。

琴子　せーのでやめましょ、せーのっ。

泰造　俺は……

明美　だけどさあ。ゆうてエンゲキで自分じゃ無い「何か」になんかなれないよね。

演じてる自分は消せない。まったく知らないことは出来ない。

泰造　ただ、自分じゃ無い他人の気持ちを想像して重ねますけどね。

琴子 あ、ケイゴ―。

泰造 俺は上下関係が無いと落ち着かないんですよ

明美 なんだよ泰造。一個しか違わないじゃーん。

泰造 近いっす近いっす。

明美 副代表だろ

泰造 勘弁してください。

琴子 ……ふふ。

携帯電話の音。

泰造 (画面を見て) あっ、お二人とも残念です。

明美 なになに？ 甚兵衛さん？

泰造 ええ。「老人ホームだけは舞台にしません。年齢も逆転しません、おええ」ですって。

琴子 おええ、って。そんなに嫌でしたか？

明美 体調悪いんですよ。生理なんじゃない。(携帯電話を開く)

泰造 セクハラセクハラ……そのまま読みます。「昔、全員二十代の人間が演じる、

老人ホームから脱走する老人の舞台を見ました。嫌でした。それは現実からかけ離れた夢物語だった……」

明美 (引き継ぐ) 「やりたいことを舞台上で叶えるのはアリ。でも、本気を出せば逃げ

られる若者が老人を演じるのは見えていてキツかったです。」……はーん。

琴子 エンゲキ、難しすぎる……あ。旦那から電話……ちよつと出てきます！

泰造 行つてらっしゃい！

琴子（電話に向かつて）だから冷蔵庫の二段目に作り置きしてるから。ピンクのお椀に盛つてね。なんでもいいなら誰も苦労しねって。お気に入りじゃないと食べないのよ……

琴子、去る。

泰造 やる気になつて来ましたね、琴子さん！

明美 ホントに自分が出られるとも思つてるのかな。

泰造 え……それは。

明美 ま、煽てればナントカも舞台に登るし。じいさんばあさんも喜ぶからいっか。

泰造 そうですよ。本番までに俺たちの力で、梅の園さんを鍛えて舞台に上げられるように仕上げないと。

明美 ちよつとちよつと。そんなヤバいことしないよ。去年の二の舞になるじゃん。

装置を塗つて衣装を縫つて、しかも立てないし台詞覚えられない人と一緒に出るとか、もつと地獄じゃん！ やらないやらない！

泰造 琴子さんに出て欲しいって言つてたじゃないですか。

明美 たしかに、いいとは思つたけど。琴子さん出したら、梅の園のばあさんたちが

金出さないって言うからナシナシ……どうしようね。じいさんばあさんは居るだけの役で、うちらがメインの話で。老人ホーム、悪くないじゃんね。甚兵衛さん説得しといてくれない？ 留五郎もキミエも松子も気にするなって。甚兵衛さん、みんなに一番作ろうとするから。

泰造　ですが。

明美　金が無いの。ウチらも最近疲れてるし。確実に半年で間に合わせないと、このホールの最後の思い出が老人の世話なんていやでしょ？

泰造　ですが……

琴子、戻ってくる。

琴子　お待たせしました……どうしたんですか。

泰造　あ、いや……

携帯電話鳴る。ぴろん。

琴子　ちよつと、こう要望が……いや、じいさんばあさんの止まらない欲望が……

止まらない着信音。ぴろん、ぴろん、ぴろん、ぴろん。

明美 夢物語がじゃんじゃん寄せられてきてるよー。  
琴子 ああ！ もう、やがましっ！

以後、琴子の携帯電話を明美と渡し合いながら

琴子 本気である人たち老人ホーム入れたい……うわー。「サスペンスをやりたい」

明美 「あたしはハラハラしたく無い、静かなのがいい」

琴子 「メロドラマをやりたい」

明美 「こっぴげずかしい、愛してるとか言えね！」

琴子 「芝居でも施設に入れないでください」

明美 最後、必死の本音がきました。

琴子 (携帯電話しまいつつ) やってみたいけど、やっちゃいけない夢物語かあ。

明美 につつき仇をぶっ殺して埋める？

琴子 サスペンス……

明美 老人、家族……嫁、姑。

泰造 あの、俺、思いついたかもしれません。

間

泰造 いつもの自分と違う役、やってみませんか。人の気持ちを知るために。

琴子 じゃあ、あたしはすみつこで……  
泰造 琴子さんにやって欲しいんです。俺たちと一緒に。お願いします！

転換

〈第四幕〉

劇中劇が始まる。

以下の配役で動くこと。

留五郎・・・明美  
キミエ・・・琴子  
嫁・・・泰造

明かりが入る。

留五郎の家の居間。

留五郎 ばあさん……  
キミエ ああ？

留五郎 呼んだだけだ。  
キミエ んだが？

間

キミエ じーさん。

留五郎 あー？

キミエ (甘く) じーさん。

留五郎 あー？

キミエ 呼んだだけだ。

留五郎 んだか……

嫁、登場。

留五郎 孫嫁が今日も、いかついふう……

嫁はマイクを手にしている。

嫁 このようにラブラブ仲睦まじく見える留五郎とキミエ。しかし、留五郎はキミエを疑っていました。

留五郎　うちのキミエは、俺の兄貴の辰次どご愛していたんでねが。あれは戦後すぐのこどだった。俺はまだ新生中学のお。

嫁　……はしよってはしよって。

留五郎　えーあ、えー。

嫁　時間が無いので孫嫁が代わりに説明します！

留五郎　あー。

嫁　二人がまだ十代のとき。東京に就職した留五郎の兄・辰次が、キミエに木綿のハンケチを残したのでした。以来、辰次は音信不通。しかしハッキリ別れたという話も聞きません……六十年連れ添った今でも、留五郎は不安でした。もし、今日でも辰次が帰って来たら、

留五郎　（頑張って立ち上がり）キミエは辰次どご選ぶんでねが。

嫁　そう思うだけで、留五郎は内心、鬼の形相になるのです。

鬼の形相の、留五郎。

嫁　しかし、一方でキミエも留五郎を疑っていました。

鬼の形相の、キミエ。

嫁　ある日曜日、友だちとコーラスサークルで茶をしばいた帰りのこと。路線バスの

窓から、キミエは見つけました。

うろろろしている留五郎。

キミエ あれ、じいさん？

嫁 タクシー会社の前で、留五郎とよく似たじいさんがうろろろしています。

キミエ はて、じいさんはディサーブス登校拒否して家さいたはず。はっ……

嫁 はっ、とキミエは気がついたのです。

キミエ あのタクシー会社の社長の友達のいとこの叔母は、松子だ！

嫁 妄想が遠い！ じいさんの浮気を予感し、キミエは内心、鬼の形相になるのでした。（湯飲みを出し）……お茶です。

キミエ うわっちい。

嫁 ちようどいい温度ですよ。どうぞ、おじいちゃん。

留五郎 あ、お茶あ〜？

キミエ なんこの熱いお茶っこは！ こんたもの飲ませて喉がでろでろに焼けただけたらなんとしたんだ！

嫁 でろでろにただれてくれたら静かになろうに。

キミエ なしたど！

嫁 なーんも！

キミエ おれの聴力検査はいつも満点だ。

嫁　じゃあ被害妄想じゃないですかあ。

キミエ　誰が被害妄想だ！

嫁　その無駄な聴力、おじいちゃんに分けてあげたらいいのに。

留五郎　……あゝ？

キミエ　おめえの魂胆は見えすいてた。この骨と皮ばりのばばあの喉を焼き払い、食べる楽しみを奪おうとしとるんだべ。やせこけて死ねばいいと思うとるんだ！

留五郎　やめれ。

キミエ　おめまで孫嫁の味方か。このオナゴ好き！

留五郎　俺はやがましから、止めれと言っただけだ。

キミエ　やがまし、はあ聞こえてねと思っただけ！

留五郎　聞けね。

嫁　考えすぎですよ。

キミエ　お父さん、おとといタクシーでどこさ行きました？

留五郎　なに？

嫁　いいじゃありませんか、どこに出掛けたって。ちゃんと帰って来たんですから。

キミエ　おめさ聞いてね。

嫁　おばあちゃん気にしすぎなんですよ。氷でもなんでも入れて飲めばいいでしょ。

キミエ　ほれ本音出た。鬼嫁。氷入れねば飲めねものをおれに飲ませようとして、

留五郎　ばあさん。たまにはおれの名前を呼んでくれ？

キミエ　は？　なした、話逸らして。

留五郎 まず！

キミエ ……

留五郎 思い出せねんだか？

キミエ そんなボケてね。あー……あえ、ろみお……ろみお……

留五郎 はあ。もうなんも聞きたくね。

キミエ まず、お茶っこ入れ直して！

嫁の姿の泰造、携帯電話を読み始める。

この場面では、みんなが本来の役に戻る。

泰造 「どうにもうまく書けません」と、甚兵衛さんが悩んでいます。

琴子 なにが？

泰造 「老夫婦のケンカなんて、見ているお客様が幸せになりますか？ お客様が、

いつも隣にいる人の大切さに気づけるようなお話しこそ、私たちがやるべきお芝居

じゃないんでしょうか」

明美 カタキ役がいたほうが、話が盛り上がるじゃん！

琴子 だからって嫁が悪者にされちゃたまんないんだけど！

泰造 じゃあ。せめて留五郎とキミエが、お互いを疑っている設定をやめませんか。

留五郎もキミエもお互いのことは深く愛している。

琴子 やっぱり孫嫁が悪者？

泰造　今は俺が嫁ですから。琴子さんはイジワルばあさんに集中して。はじめ！

再び劇中劇。

嫁、タバスコを猛然とキミエのお茶に振り入れる。

嫁　どうぞ、おばあちゃん。

キミエ、タバスコ入りのお茶を一口飲んで

キミエ　……ふん。

むせないキミエ。

驚く嫁。タバスコの瓶と見比べ、中身が出るのを確かめる。

キミエ　じいさん。ね、じいさん？

留五郎　あー？

キミエ　じいさん、優しい孫嫁が入れてくれたお茶っこだですよ。

留五郎に回される湯飲み。

慌て出す嫁。

嫁 ちよつとおばあちゃん、回し飲みは不潔です！

留五郎 ……んだか。

嫁 ねえ。おじいちゃんもね、いやですよね。

留五郎 いやと言うほどでもねえけどな。

キミエ 何がいやか。こちとら回し飲みどころか、子どもさこさえた仲ですから口の

中のバイキンもみんな一緒よ！

留五郎 あゝ？

キミエ おれのお茶っこ飲めねんだか？

嫁 モラハラ上司みたいなことしないで湯飲みを返してください！

キミエ あたしのお茶っこだよ！

湯飲みを取り合う、嫁とキミエ。

勢いあまって、お茶がこぼれる。

嫁 あー、まかした(溢した)。まかしたじゃないですか。まーかーしいた！

キミエ おめがまかしたんでねか！

留五郎 さい！ ストーブのコンセントが剥けてら、ぴりぴり(さらに剥く)

嫁 もーおばあちゃんは私の仕事を増やすんだから！

キミエ なしたど！ 底意地の悪い！

嫁 いじわるなのは、おばあちゃんでしょ。

キミエ あーはらわり。おめなんか、いっそ、すね（死ね）！

嫁、お茶を拭いている。

嫁 死ねですって、ああいえばこういう、こういうええ……

そのとき。こぼれた茶に触れた嫁が、感電する。

嫁 ……しびびびびびび！

ばたん、と倒れる嫁。

キミエ えー……えー……お茶っこ拭いて、電気びりびり？

留五郎 ……（びっくりして声も出ない）

キミエ、慎重にコンセントを抜く。

嫁に触れて。

留五郎 ひつ。

キミエ (留五郎の声にびっくり) ひえっ。……大丈夫だあ。

留五郎 ……

キミエ し、しんでだ。

留五郎 ……ばーさん。

キミエ しんじまった。ほんとに。

留五郎 ばーさん。自首せえ。

キミエ おめがコンセントぴりぴりぴり剥いたせいだべ！ あーれー、さ、ささ

さい！ さい！ なんとす、なんとす……(素に戻って) えっ、嫁が死んだらこの

あとの展開どうするの？

泰造 (死にながら) 続けて！

明美 死体出現で始まるサスペンスでしょ。

琴子 ここで終わりにしたほうが。

明美 いいから、はいっ。……(留五郎に戻る) 「や、山さ捨てるべ」

留五郎 運が良ければ熊が食べてくれるべ。

キミエ その熊が山菜採り狙ったらなんとす。

留五郎 海だ。入道崎から転がすべ。

キミエ それしかね。幸喜さ帰ってくる前に出るべ。

留五郎 だめだああ。

キミエ なして。

留五郎 あど免許返したもの（返納した）

キミエ かまわね。おれ運転するつ。

留五郎 おめ病院しか行ったことねえべ。

キミエ 琴子さん、琴子さん！ 車の鍵はどこ……あ、死んでたの。

留五郎 しっかりせ！

キミエ おめもな！

二人、嫁を引きずる。

留五郎 重てええ！

キミエ この無駄飯ぐらいの孫嫁が！

留五郎 その孫嫁の飯食ってだの、おれらだ！

キミエ うろうろう！

留五郎 どやああああ！

二人がかりで嫁を引きずり、後部座席の部分に横倒しにする。

そこは軽自動車の運転席となる。

車が発進。

雨の音が響く。

留五郎 ばあさん  
キミエ あー？  
留五郎 呼んだだけだ。  
キミエ んだか。

雨の音。

キミエ じいさん。  
留五郎 なした……前見てれ。  
キミエ ……  
留五郎 なに、呼んだだけか？  
キミエ もしな、ケーサツさみつかつたらな、  
留五郎 うん  
キミエ おめが殺したことにしてけれえ。  
留五郎 ……んあ？  
キミエ 大事なことだけ聞けねふり。  
留五郎 なして。  
キミエ ……  
留五郎 おめがまかしたお茶っこだべ。おいら夫婦だべ。おめが庇ってくれるのが筋

だべった！

キミエ おめボケてることになっただ。歳も歳だ、刑務所だば入れられねで。

留五郎 ……やったで。(嫌だ)

キミエ なしてへ。(なんでよ)

留五郎 おつかね(怖い)

キミエ いくじなし！

留五郎 おれはどうなってもええなんだか。

間、雨が強くなって来た。

留五郎 辰次でねーからか。

キミエ なんの話だ。

留五郎 なんも…あー、オナゴだば怖えな！ 半世紀連れ添ったオドコ見捨てるん

だが！

キミエ おめこそ、タクシーでおなごのとごさ行ったりするから！

留五郎 ……行っとらん。

キミエ 行っただ！ 見た！ 誰のとごさ行っただか想像つく！

留五郎 いつ！

キミエ こねだの(この前の) 日曜！

留五郎 ……(記憶を探る)

キミエ もうええ！ あとボケたふりさねくつても！

嫁五郎 ……（記憶を探る）

キミエ いい、あといい。

留五郎 ジャスコ。

キミエ なしてジャスコさ行っただ？

留五郎 ……

キミエ ほれ、言ってみれ。

留五郎 何買ったか忘れた。

キミエ おめすぐそれだべ。なに、孫嫁の服か。

留五郎 ばかげ（馬鹿だな）

キミエ 松子のか？

留五郎 おめのだ。

キミエ え。

留五郎 化粧品、服……酒？ ああ分がんね！ とにかくおめあんだ！

キミエ なして。

留五郎 好きなオナゴさプレゼント買っでなに悪いつて。

キミエ ……

留五郎 何にしろさつき、つぶしてしまった。嫁さん転がしたとき。

雨の音が降り続く。

キミエ ぐす……

留五郎 泣くなー。ほれ、そこ右。

キミエ おめが、おれに買うはずね。

留五郎 買つてあんだ。年金で。

雨の中、車が曲がる。

二人、車を停める。

岬の堤防についたようだ。波音がたたきつける。

二人は嫁を引っ張り出し、崖の上に引きずる。

留五郎 あれ腰がー！

キミエ あれ膝がー！

崖を登る、留五郎とキミエ。

留五郎 せーのっ！

キミエ ほいつ！（嫁を投げ落とす）

留五郎 ……はあはあ。

キミエ これで……ぎゃあああ……

留五郎 なしたなした！

落雷。稲光にゾンビのように立ち上がる嫁。

キミエ たたりじゃあ！

留五郎 ばあさん……やめれ！

キミエ この鬼嫁があああ地獄さ、帰れえええ！

キミエ、嫁を押し。落ちる孫嫁。

キミエ はあっ……はあっ……

留五郎 二回も、殺してしまった。……ひいつ。

ところが、再び上がってこようとすると、嫁。

落雷が閃く。

留五郎 まだ、生きどる。

キミエ 逃げるど！

留五郎 無理だ。

どうにか走り出す二人。追いかける嫁。

留五郎 腰が、腰が！

キミエ ほれ、いちに、いちに！

留五郎 腰が、腰が！ 圧迫骨折してらんだ！

キミエ いちに！ おめさ任せて先に行ってもええか！

留五郎 やだああ

キミエ 俺さ任せて先に行け、ぐらい言えっ！

留五郎 絶対やだじゃああ。

逆向きに走りながらはけていく、嫁（引き離す表現）  
車に駆け込む二人。

エンジンをかける。車は走り出す。

留五郎 はーおつかねごと。（恐ろしいこと）

キミエ おめが、

留五郎 おめが殺したんじゃ！

キミエ おめが、おめがっ。おめが孫嫁さ優しくするから！

留五郎 馬鹿なこと言うでねっ！ ……っあ、前、前見れー！

キミエ なんとよ、おれさ指図して、

留五郎 幸喜の車だー！  
キミエ うあああああ！ ぶつかる！

衝突音。

避けようとして。転落したらしい車。  
車外に放り出される、留五郎とキミエ。

留五郎 ばーさん。しっかりせ。

キミエ こうき……こうき……

留五郎 ケータイ、ケータイどこじゃ。救急車……

キミエ だめだ、幸喜、捕まってしまう。

留五郎 俺ら無免許運転だって言えばええべ。

キミエ じいさん。

留五郎 なした、どこか痛えんだか。

キミエ 愛してるって、言ってくれ。

突然流れ出す音楽。愛のテーマ的なもの。

留五郎 ……ばあさん。

キミエ ……

留五郎 キミエ！

キミエ ……

留五郎 あ……あ……愛してるでなば言いきれね。死なねでけれ、ばあさん。もう一

度、俺の名前を呼んでけれ。頼む、留五郎って……頼む……

キミエ (……………)

留五郎 なに、今際の際に……なに？

キミエ 「たつじ」……あ、間違えた。

留五郎 ……お前、やっぱりー！

明転

泰造が落ちた場所から上がって来る。

明美 あ、嫁役、おつかれ。

泰造 最後までして間違えちゃうかなあ。

明美 サスペンスとメロドラマとギャグ詰め込んだらこうなった。

泰造 台無しです……

琴子 こう、じいさんのせいでイラっとしてしまうキミエの気持ちだね、ハイハイ。

なるほどね。

泰造 分かりましたか。

琴子 ええとつても……分かるかい！

明美 だよねえ。

琴子 嫁、殺されてるし、崖から捨てられるし、ゾンビでサスペンスでメロドラマで、キミエの気持ちとか無理（笑ってる）

泰造 ですよねえ。

琴子 「愛してるって、言ってくれ」

明美 「キミエー！」

三人ともゲラゲラ笑っている。

ひろん、と泰造の携帯電話の音。

明美 （笑いながら）エチュードっていうんだけど。まあ出演者のアドリブのやり取りから、ちゃんとした台本が生まれることもあって……

泰造 （画面を見て）えっ！

明美 なぁに？

泰造 （絶句）

明美 ねえ、なんなの？

泰造 救急車です。

琴子 え、このあとの話ですか？

泰造 甚兵衛さんが、救急車呼んだそうです。

明美 ……どうということ。

琴子 ちょうど良いラインの体調の悪さを保てなかったんですか！もう、これだからお芝居やる人は！

間

自分でも携帯電話を確認する明美。

琴子 まず見舞いに行っていていいですよ……えーと、次の土曜日は……

明美 ……

泰造 ……まずいですね。

琴子 どうしたんですか。えっ、まさか死んだ？

明美 (携帯電話を凝視) 生きてるけど……

琴子 良かったあ。

明美、答えない。

琴子 明美さん？

明美 ……

琴子 ねえ、見舞い、

明美 生きてりやいいってもんじゃないの！

琴子 ……どうしたの？

明美 あかね、今回のじいさんばあさんが大量に出るって事情を考えると、当て書きしてもらわないとき、みんなわがままだし、体も動かないじゃない。

琴子 でも……まだ本番まで半年あるし。

明美 琴子さんに言っても分かんないだろうけど。準備期間ってあるから！

泰造 まあまあ。まず、まず甚兵衛さんが落ち着いたら相談しましよ。意外と腹下しとかかもしれせんよ。

明美 何言ってるの。甚兵衛さんが救急車でしょ。無理だよ。

泰造 まず来週の約束を

琴子 ……あの。

明美 いやもう話し合い意味ない。

琴子 ちよつと。

明美 だって台本無ければ何も進められ無いんだから。

琴子 台本って売ってないんですか、本屋とかあまぞんとか。

明美 え、それはウチらに探せって意味？

琴子 それがあればいいんですよね。

明美 じゃああなたが探してよ。みんなが出来そうなのを。ついでに半年で、うちらが間に合うのをさ。

琴子 梅の園だって協力するから。

明美 膝が痛い台詞も覚えられない、老人になにが出来んの？ 金出す以外に何が！

泰造 落ち着いて。

琴子 大道具作ったり、衣装縫ったり……

明美 それ全部無駄になるかもしれないんだよ、琴子さんの一番嫌いな、無駄な金が出るよ。

琴子 だけど、やつと。

明美 話にならない。

明美、出ようとする。

泰造 俺一緒に行きますんで、明美さん！

一応止まるが、振り向かない明美。

琴子 なんで怒ってるの！

泰造 琴子さん、明美さんだってやりたくない訳では無いんです。だけど、俺たち五人しかないんですよ。鈴木、鈴木、鈴木、佐々木、甚兵衛。甚兵衛さんが作演

出、明美さんが会計と役者、鈴木が照明で、佐々木が音響広報美術ホームページ小道具衣装チケット販売窓口……

琴子 佐々木すげえな。

明美 泰造君だって役者も受付もしてる。

泰造 俺は重役なんで……

明美 重なっているほうの重役じゃん。役者なのに頭から登場したこと無いじゃん！

間

明美 悪いけど、声かけた相手が悪かったと思ってよ。

泰造 まだ結論は……

琴子 ……

泰造 せめて次の約束をしましょう。この企画を閉じるとしても。

琴子 なめてるね。

明美 あ？

琴子 舞台なめてんのかっ！

泰造 琴子さん。

琴子 どんだけの思いで十五万円かき集めたと思う？

明美 まだ金かかってないし。むしろ助成金使いたいの。

琴子 じゃあ、あんたらのハートはその程度だ。

明美 は？

琴子 人のこと心霊スポットだなんだって言って、ぜんぜん生きてない。死んでる。

明美 ほんと死んでるんだよ心が！

明美 ふざけんな！

琴子 どっちがだよ！ 梅の園なめんな！ 人生なめんな！

間

琴子 あたしも、馬鹿やってる。ここに毎週来るために、パートの仲間に、シフト変わってもらって、保育園の先生に子ども預かってもらって、夕方から旦那が見てくれて。あたし一人のために何人も動いてる！

泰造 俺たちだっていつも。

琴子 でしょ！ 甚兵衛さんだってそうでしょ！ 一人でやってる人なんかいないでしょ？

明美 やりくりは舞台以前の。

琴子 玄関で靴履いて、そこから一步も踏み出していない！

明美 ……踏み出して転ぶのが嫌だって言ってるの！

琴子 だけど歩かなけりゃ、歩けるかどうかとも分かんないでしょ。

明美 ……

琴子 あのね……岡本のばあさまは、歩いてるんだよ。通所のリハビリ増やしてさ。

リハビリの先生に本番来てもらう約束したからって。留五郎もキミエも松子も、病院サボらなくなつたし、タクシー減らして自力で行くようになった。山田さんちの飲んだくれの息子は、酒止めてのたうち回ってるし、友蔵さんは体重増やさないよ。うに散歩するようになった……町内会のみんなが梅の園の、ホールの公演見るまで死ねねって言ってんだよ！ こっちは準備始めてんだよ！

明美 そっちが勝手に。  
琴子 勝手だけど。もうみんなで舞台を作ってるの！ 命懸けてるの！  
泰造 命がけ……  
琴子 せっかく楽しくなって来たのに、たった一人いなくなったからって逃げないでよ。うちら、運命共同体でしょ。

### 間

琴子 梅の園の全部の力を貸すから。だから、覚悟決めて。

明美 ……やれるのかな

泰造 やります。

明美 ……！！

泰三 甚兵衛さんが倒れた今、代行は副代表の俺です。代表が直前までやる気だった以上、この話はまだ梅の園さんに迷惑をかけています。やるしかありません。

明美 ……びびびっ（電流）

琴子 え？ 今！（惚れ直したの？）

泰造 は？

琴子 ううん……

泰造 お二人にお願いです。俺も甚兵衛さんも、お金の管理は苦手です。自分より、

年取った人がどれくらい動けるかも知りません。大赤字になったり、ケガ人が出て、二つの劇団とも活動できなくなるのは避けたいんです。

琴子 じいさんばあさんの財布と健康は、責任を持って守るから。

泰造 明美さん

明美 ハイ。

泰造 お願いです。何か、このメンバーでできる台本を探してください。俺たち甚兵衛さんの台本しか知りません。明美さんは東京でやってきて、俺たちの中で一番経験がある。

明美 あたしは。そりや色々知ってるけど、八十のじいさんが出るなんて、しかも、全部で十人近くなんて……

琴子 誰か他に書ける人はいないの。

明美 それは泰造君のほうで、大学の後輩とか、誰か書く人いない？

泰造 ……すみません、みんな県外に行っちゃってしまっただ。

琴子 あのだ。とりあえず病院行かない？

しばしの間のこと、

携帯電話の音「びろん」

泰造 琴子さん鳴ってますよ。

琴子 あたしじゃない。

明美 え。泰造君？

泰造 (画面を見て) ……甚兵衛さんです。

明美 救急車はっ？

泰造 救急車の中でケータイ触ってます。

明美 ばかじゃん。

琴子 遺言？

泰造 「すみません、今、コミセンの前あたりを市立病院に向かって走行中です右の

下腹部が」

明美 電話じゃ無いんかい！

泰造 「シロート判断ですが発症から腹痛に至るまで……」

明美 話をはしよれ！ 用事は！

泰造 「私は書けそうにありません。既成台本を提案したいです」

琴子 きせい？

明美 プロとか、昔の偉い人が書いた台本！ なにっ！ おすすめは！

琴子 ロミオロミオ？

泰造 (画面を見て) あ……っ。

明美 (自分の画面を確認して) ……そうきたか。

琴子 どんなの。

明美 いけるかな。でも……半年あれば、いけるよこれ！

泰造 古典の力を借りますよう！

〈第五幕〉

暗転

暗転の間に、舞台上は公演を打ち上げた「その後」の状態になる。大黒幕が飛び、舞台の背後の使っていない舞台関係の物品や、壁が見えるなどしている。

—半年後。夏である。

本番が終わった翌週の土曜日の昼前。

暗転の中、泰造が「桜の園」の台詞を思い出しながら語り出す。

泰造はトロフィーモフの役だ。

「桜の園」の第三幕。トロフィーモフが、アーニヤと彼の関係は恋愛を超えていると説く場面だ。

明かりが入る。

泰造と、話を聞いている明美がいる。

明美 恋愛を超越するねえ。ちがうちがう好きじゃないよ、ただの友だちだよ、って言う男ほど信用ならんもんは無いな。

泰造 同感です。絶対好きでしょ。

明美 好き……？

泰造 好きだと思いつながら演じてましたよ。

明美 アーニヤをね。

泰造 小間使いのことが……

明美 そりゃチェーホフと解釈違うわ。

泰造 いいんです、いーんです。いーーーんです。

明美 (少しすり寄る) いいよ。

琴子が来る

泰造と明美は少しだけ距離を取る

琴子 お疲れ様です。ハイ……明細一覧と、収支です。

明美 (封筒の中を数えて) たしかに、お預かりします。あ、こちらはうちの明細のコピー。

琴子 お預かりします。

明美 最高だったよ、琴ちゃんのアーニヤ。

琴子 ……キミエの女地主が全部持ってたから。

泰造 いやいや。初舞台と思えなかったです。

明美 馬鹿な母親が金使いおつてゝって心配と愛情が感じられた。

琴子 実感あるからね。

泰造 留五郎さん、本気で芝居してたんですね。ロパーヒン堂々として名優だったな。いや梅の園の皆さん、そうでした。骨の髄から台詞を絞り出してる感じで。

明美 震えたよね。

泰造 しかも友蔵さんの作ってくれたセットが、また本格的で！ テンション上がり

ましたね！

琴子 元・大工だからね。

明美 高かったんじゃない？

琴子 タダだよ。廃材使ったって！

明美 松子も頑張って台詞覚えたよね。偉い、天才。

琴子 佐藤のじさまなんて、マジで骨やりそうになつて、こう歯を食いしばるから、なんも聞こえないの。

泰造 それでか。最後のフィールスの表情が鬼気迫ってたのは。

琴子 本物の八十七歳だから。

泰造 なんていうか、その、すみませんでした。

琴子 泰造さん。

泰造 おみそれしました。皆さん、すごかった。沢山のことを教えられました。演劇

と一緒に生きていく重みを見て、命懸けの舞台と一緒に立たせてもらって、本当に光栄でした。

琴子　へっへっへー。

明美　梅の園が、桜の園になったね。

## 問

琴子　ね。コハピタスは、来年どんなことするの？

泰造　まあ、いつも通りですかね。また代表が書いた台本をみんなで、あーだこーだ……。

琴子　このホール使うんだよね。チケット、安くならない？

泰造　えっ……あー。

明美　安くは、しない。

琴子　泰造さん、メロドラマしなきゃ。距離詰めないと。

泰造　はあ、距離は。まあ。

琴子　エッチなシーンはダメだよ。

明美　やるわけないでしょ。

琴子　小学校低学年でも、オッケー？

明美　うん。うちのは教育上も大丈夫なはず。

琴子　どうしよっかなー。客席で見たいけど、あの角の部屋使ったほうがいいかな？

明美 母子室のこと？

泰造 いいですよ、あの設備。

琴子 すごく便利。子連れでも、周りに気兼ね無く見たいもの見れるの。

泰造 次の場所にも欲しかったですよ。

琴子 ん？ 次？

泰造 琴子さん。聞いたことあるか分からないんですが。

明美 (急に) ねえ。楽しいと思ってくれた、ちよつとでも？

琴子 楽しかったよ。女地主のキミエは馬鹿だけど憎めなくて、そうか、ばあさんは  
こういう人なんだって……優しくなれた。

泰造 良かった。

琴子 いや、これは確かに。あたしはこの先、やるか分かんないけど。

明美 けど？

琴子 ハマるゝ

明美 ロミオロミオより、楽しかったでしょ？

琴子 そうだ。うちの子、子役とかどう？

明美 そうね。児童会館のホールもあるし。

泰造 新しい施設も城址公園の近くにできますから。

琴子 あれ、ここは？

明美 ここは、うん……

遠くから、音が届く。  
それは破壊のブルドーザーかもしれないし、新しく建てられるホール  
を行き交う人々の賑わいかもしれない。

琴子 嘘……留五郎とキミエが、来年もここでチェーホフやりたいて言ってたの  
に。

泰造 すみません。

琴子 ずっとあるんだよね、このホール。

明美 あるよ。

泰造 明美さん。

明美 あって欲しい。それが夢物語でも。

明美、座る。

泰造、近くに座る。

琴子、座る。

三人の頭上で、照明が変わる。

森に炎に海に雪景色に、千変万化に移り変わる。

三人は立ち上がり、歩き出す。

流れる四季のもと、会館とともに過ぎた時間を追体験する。

そのとき、文化会館を壊す衝撃音が響く。

追いかけて波のように、雑踏の音。人々のにぎわいが寄せる。

はっと振り向く三名。

照明が消え、薄暗闇に沈む舞台。

と、舞台袖から、誘うように一条の光が差し込む。

光の方向へ、明美と泰造は去っていく。

一人残った琴子は、「桜の園」の台詞をなぞり始める。

「桜の園」第三幕の終わり。アーニヤが母親に、桜の園を捨てて旅立とうと説く部分である。

ここを出て、新しい場所へ。

言い終わり、琴子もまた光に向かって歩み去る。

流れ出す「蛍の光」の音楽。無人の舞台が暗くなっていく。

ホールと舞台機構が、役者と観客を見送る。

さよならを言うように——暗転。

終幕

参考文献

- 「桜の園・三人姉妹」 新潮文庫、チエーホフ（訳者・神西清）
- 「俳優の仕事―俳優教育システム 第一部」  
未來社、コンスタンチン・スタニスラフスキー（訳者・岩田貴、堀江新二、浦雅春、  
安達紀子） \* 未來社の「社」は旧字体
- 「演技と演出」 講談社現代新書、平田オリザ